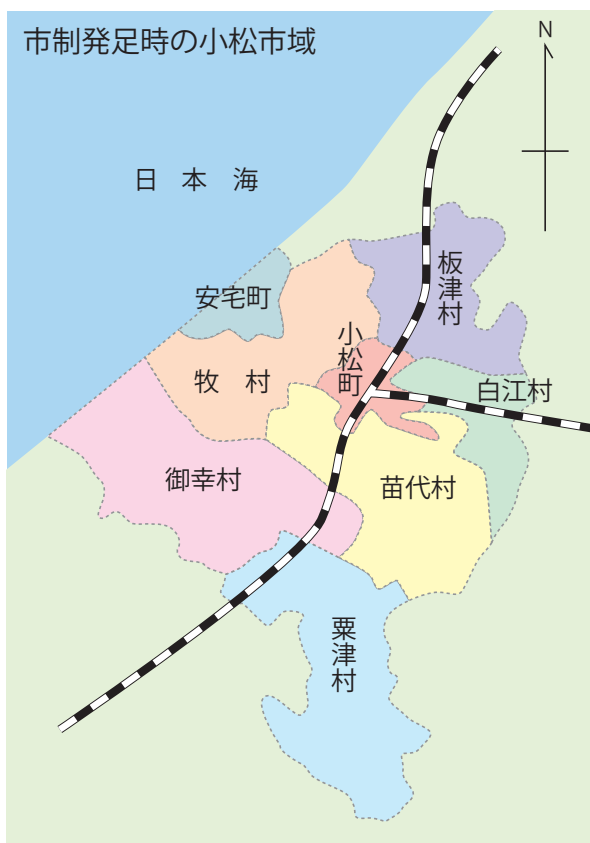


小松市制の発足



(『北國毎日新聞』昭和15年12月1日より)

昭和十五年（一九四〇）十二月一日、小松町と安宅町、牧村、板津村、白江村、苗代村、御幸村、粟津村の二町六か村が合併して、小松市が誕生した。全国で一七六番目の市であった。合併

の結果、新生小松市は人口五万九七七人、面積九一・〇七平方キロメートルとなった。合併への模索は昭和十二



旧小松市役所(小松市立博物館提供)

年ころから起こっていたが、昭和十四年に七尾市が成立するとにわかに機運が高まり、紀元二六〇〇年を期して実現に至ったのである。時あたかも挙国一致の名のもとに政党が解散し、大政翼賛会が結成された年であった。

市制移行の目的は、国防国家を建設するための基礎強固な自治体を結成することとされていた。その実、『市制施行上申書』では、都市計画の推進、工場誘致、食糧増産^{しよくりよう}、商工会議所の設置、道路運輸施設の充実などの将来展望がうたわれていた。行政規模の拡大により全体的総合的發展を促進し、産業を開発振興して、住民の福利を増進しようとするものであったのである。



初代小松市長の山口又八(『小松市制50周年記念誌』より)

初代市長には小松町長であった山口又八が就任した。翌年四月三日には市制祝賀式が開催、小松市歌も披露され、国民学校児童の旗行列、青年団・青年学校生徒の提灯^{ちようどん}行列も行われた。



小松市民センターに掲げられている小松市歌の陶板

市制の実施とともに、町名変更も行われた。これにより泥町が大川町に、塗師屋町が上寺町に、高堂新が高松町に、勘定が東山町に、鶴ヶ島・鍛冶・中野が鶴ヶ島町と改称された。

(山本吉次)



市制発足祝賀会(小松市立博物館提供)